

2013年度 人工知能学会研究会 優秀賞受賞

振動子モデルと音声可視化システムを用いたアマガエルの合唱法則の解析
合原一究, 栗野皓光, 水本武志, 坂東宜昭, 大塚琢馬, 柳楽浩平, 奥乃 博
SIG-Challenge-B303, 第39回, 2014年3月18日

合原一究 (日本学術振興会特別研究員 (PD))

2011年京都大学大学院理学研究科物理学宇宙物理学専攻博士課程修了。博士 (理学)。元日本学術振興特別研究員 (DC1)。

栗野皓光 (京都大学大学院情報学研究科通信情報システム専攻博士課程)

日本学術振興特別研究員 (DC1)。2012年同専攻修了。修士 (情報学)。

水本武志 ((株) ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン, リサーチャ)

2013年京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻博士課程修了。博士 (情報学)。元日本学術振興特別研究員 (DC2)。

坂東宜昭 (京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻修士課程)

2013年京都大学工学部情報学科飛び級修士課程入学。

大塚琢馬 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所研究員)

2014年京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻博士課程修了。博士 (情報学)。元日本学術振興特別研究員 (DC1)。

柳楽浩平 ((株) 楽天)

2013年京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻修士課程修了。修士 (情報学)。

奥乃 博 (早稲田大学理工学術院実体情報学博士プログラム教授 (任期付))

1972年東京大学教養学部基礎科学科卒業。博士 (工学)。



●受賞理由

本論文は、カエルの合唱の解析にロボット聴覚の技術を導入しカエルホテルという音を可視化するデバイスを開発し、これを用いてカエルがフィール

ドでグループに分かれてかわるがわるに合唱するという動物行動学的に重要な新たな知見を得た，また，これを振動子モデルによってモデル化したという研究である．これまで，AI チャレンジ研究会が中心となって培ってきたロボット聴覚の知見を，生物行動学の分野と融合し，実際に大きな成果を上げており，独創的，かつ斬新な研究である．本件に関連した研究は，Nature Group の Scientific Report にも掲載されており，動物行動学的側面から，その研究価値が世界的に認められている．工学的側面からも，基礎研究から生まれる技術を新たな分野に展開していく研究を奨励する意味で，本件を優秀賞に推薦したい．

.....

以上

記事出处：2013 年度 人工知能学会 会告より引用